

# 「石狩市地域公共交通計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

【パブリックコメント実施期間】 令和6年2月14日（水）から令和6年3月14日（木）まで

【担当部局】 企画経済部企画課交通担当

【意見提出者】 2人

【意見件数】 11件

【意見への対応】	採用：	意見に基づき原案を修正するもの	0件
	一部採用：	意見に基づき原案を一部修正するもの	0件
	不採用：	意見を原案に反映しないもの	0件
	記載済：	既に原案に盛り込まれているもの	0件
	参考：	原案に盛り込めないが今後参考とするもの	6件
	その他：	ご質問・ご意見として伺うもの	5件

【意見の検討経過】 令和6年3月15日～3月19日 当課において意見の検討及び検討結果（案）の作成  
令和6年3月25日 令和5年度第6回石狩市地域公共交通活性化協議会にて同意を受け、広聴・市民生活課  
に合議のうえ、市長決裁にて最終決定

## 「石狩市地域公共交通計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
1	せっきくのロープウェイ構想も交通難民地区においてけぼりでは残念	そ の 他	官民連携手法による新たな軌道系交通の導入については、新たな技術開発が国内で進められていることや、脱炭素と地域公共交通の課題解決の実現等を目指していることを踏まえ、その可能性を調査しております。
2	せめて安価なコミュニティバスを、厚田区や浜益区のみならず緑ヶ原・高岡・美登位など僻地の住民が皆不自由することなく通学・通勤・通院や買い物できるよう、7～19 時くらいまで空白の時間が無いよう運行していただきたい	参 考	<p>広域で分散した本市の都市構造を支える公共交通ネットワークは、路線バス（北海道中央バス）、都市間高速バス（沿岸バス）、市町村有償旅客運送（浜益厚田間及び浜益滝川間乗合自動車）、スクールバス一般混乗及び交通空白地有償運送（NPO法人）といった、多様な移動手段で構成しております。</p> <p>緑ヶ原は、北海道中央バス札厚線が運行しており、高岡・美登位等については、持続可能な移動手段の確保に向けて、地域住民との意見交換を行いながら検討を進めたいと考えております。</p>
3	<p>隣町の太美駅やロイズタウン駅に直結していただけると非常に便利</p> <p>※身近な例として当別町は町内各所～あいの里教育大駅(札幌市北区)行きのコミュニティバスが充実している</p>	参 考	<p>地域住民との意見交換会においても、JR札沼線の近隣駅へのアクセスを希望する声が寄せられており、ニーズがあることは承知をしております。</p> <p>現在、路線バス（北海道中央バス）が中央バス札幌ターミナル、札幌駅・手稲駅、地下鉄麻生駅・栄町駅・宮の沢駅にアクセスしており、今後も、交通事業者と連携し、需要規模に応じた効率的で効果的な地域公共交通ネットワークの形成を図りたいと考えております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
4	<p>各施設に設置している概要版は、1のみの添付であり、これでは何のことやら解からず、何故この様な大切な事であるのに。最低概要版2は絶対に必要で有ったと感じる。</p> <p>原案はなかなか全てを読みに行く時間など大変な行為である事を行政側は理解して頂きたい。何故2を添付しなかったのか。又、今後パブコメを行う時には、例え概要版であっても、より多くの人の意見を求めているという姿勢を示して頂きたい。</p>	その他	<p>当計画のパブリックコメント（意見募集）手続については、広報、ホームページ、あい・ボードにてご案内し、原案（概要版含む）はホームページに掲載しているほか、市役所庁舎（厚田支所及び浜益支所を含む）に備え置き、閲覧いただけるよういたしました。</p> <p>あい・ボードについては、掲載スペースに限りがあることから、概要は最低限にとどめたことをご理解願いたいと存じます。</p>
5	<p>石狩市は微弱増ではあるが若い世代も入って来ているようであるが、圧倒的に高齢化率も高く、今後も退職者が増えるのは目に見えている。特に浜益・厚田は交通の便が悪く、今後、免許返納したくても出来ない程の不便である。人口が少ないからといって、ないがしろ状況を作る事は益々人口減につながる。手厚く、心のある施策を強く望みます。</p> <p>しかし文中にもありますが、NPOライフサポート会に頼るのにも、サポート会員の高齢化もあり限度が有る。万が一事故でも起きた時の悲劇を考慮にも入れ、今後は行政が正規職員を雇い、持続可能な策の考案を願います。このことにより若者の職に繋がり、生活の安定や市の若者人口のアップにもなると思います。</p> <p>経費のことばかり考えていては、よりよい街にはならないのではないのでしょうか。</p>	参 考	<p>今後、人口減少及び高齢化の更なる進行が予想されている中で、バス交通空白地では免許返納したくても自家用車での移動に依存せざるを得ない状況となっていることは承知をしております。</p> <p>現在の地域公共交通ネットワーク（路線バス、都市間高速バス、市町村有償旅客運送（浜益厚田間及び浜益滝川間乗合自動車）、スクールバス一般混乗及び交通空白地有償運送（NPO法人）については、関係者間で連携し、今後も維持確保に努めていきたいと考えております。</p> <p>さらに、浜益厚田間及び浜益滝川間乗合自動車については、地域住民との意見交換会において、使いたい時間に利用出来ない、乗客がいない便がある等移動ニーズとダイヤが合っていないとの声が寄せられており、限られた人的・物的資源の中でニーズに適した形へ改善を行っていくことで利便性向上に努めていきたいと考えております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
			<p>また、交通空白地有償運送については、NPO法人あつたライフサポートの会と、今後とも継続的に対話を重ねながら、持続可能な運行体制の確保を図っていきたいと考えております。</p>
6	<p>「いつモ」は新港で働く方を中心とした、しかも札幌から（手稲・麻生など）を中心とした考えであり、地域住民がより利用し易いシステムを作って頂きたい。</p> <p>「いつモ」の様なシステムは評価はしますが、市民も等しく時間帯・料金など病院・買物・図書館・公共施設などへの移動手段として利用し易いものになって欲しい。特に浜益・厚田は上記4施設への移動を考慮して頂きたい。</p> <p>スマホアプリ、LINEアプリと便利そうであるが、慣れる迄は高齢者の多い石狩では、絵に描いた餅にならぬようにして頂きたい。</p> <p>各拠点に案内人の常駐などして、デジタルやAIに頼るばかりではなく、人と人が接する温かさや優しさを感じられる対策をして欲しい。このことにより、より安心して安全で暮らし易い街を実感できると思う。</p> <p>突然の交通障害が（冬期・災害・事故等）起こった時は特に不安になるものである。</p> <p>何年間もとはいわないが、新システム導入後、せめて二年位は人での対応を強く願う。</p> <p>又、各公共施設で紙面による案内を掲示しておく事は</p>	参 考	<p>オンデマンド交通実証運行「いつモ」は、石狩湾新港地域で働く方を対象とし、地下鉄麻生駅及び手稲駅を起点に花川からも乗降し新港地域への通勤手段とする「通勤シャトル」と、買い物や通院等日常生活の目的地への移動手段「市内オンデマンド」、2つのサービスを同時に実証しています。</p> <p>広域で分散した本市の都市構造においては、路線バス（北海道中央バス）、都市間高速バス（沿岸バス）、市町村有償旅客運送（浜益厚田間及び浜益滝川間乗合自動車）、スクールバス一般混乗及び交通空白地有償運送（NPO法人）による多様な移動手段を組合せ、交通事業者等と連携して地域公共交通ネットワークを確保しており、今後は、石狩市役所周辺に交通結節点の機能を創出することで、円滑な乗継により施設等への移動に対する利便性向上を行っていきたいと考えております。</p> <p>現在、カスタマーセンターを設置し、オペレーターが運行状況、電話予約及び問合せ等を受け付けているほか、市役所、ラルズマート花川南店、イオンスーパーセンター石狩緑苑台店及び石狩病院には、予約のための直通電話を設置しております。</p> <p>さらに、上記施設においてポスターも掲示し、オンデマンド交通実証運行の周知を行っております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	必要であると感じる。		
7	<p>施策1：自家用有償旅客運送</p> <p>国も積極的ではあるが、信頼感や事故などを考えると基本的に反対である。</p>	参 考	<p>ここでの自家用有償旅客運送は、乗合自動車（浜益厚田間・浜益滝川間）やスクールバス一般住民混乗を指しており、現在国において解禁を検討しているライドシェアではありません。</p> <p>今後、ライドシェアの導入については、利用者のニーズを見極め、交通事業者と情報を共有しながら、慎重に判断していきたいと考えております。</p>
8	<p>施策2：BHLS検討</p> <p>文言だけでは理解出来ない。パブコメを求めるのであれば、もっと具体的に示して下さらないとわからない。</p>	そ の 他	<p>バス運転手の不足が深刻化し、減便が切れ目なく進んでいる現状において、輸送力を向上する手段として、海外で事例のある、路面電車なみの機能を備えた次世代のバスサービスであるBHLS（バス・ハイレベルサービス）の導入について、交通事業者と連携し、検討したいと考えております。</p>
9	<p>施策4：空白地で多様な移動手段・フィーダー系統とあるが、何のことかわからない。</p>	そ の 他	<p>「多様な移動手段」とは38ページに記載のとおり、タクシー、乗合自動車、スクールバス、福祉輸送等を指しており、地域の特性に応じてバス以外の移動手段を総動員しながら移動手段の確保に努めていきたいと考えております。</p> <p>また、施策4において、「フィーダー系統」について記載しておりませんが、「フィーダー系統」は、幹線交通と接続する支線交通のことであり、本市で言えば、道の駅「あいろ一ど厚田」</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
			<p>で北海道中央バス札厚線と接続する、浜益厚田間乗合自動車等を指しております。</p>
10	<p>施策7:「利用しなければ存続できないといった危機感を地域住民とも共有し」とあるが、利用しづらいものは(不便なもの。ニーズに合っていないもの等)、危機感をもっているも利用できない。しっかりとした計画を練る事が重要である。</p>	参 考	<p>他の7つの施策を実施しながら、地域公共交通活性化協議会が中心となって、公共交通の利便性向上に向けて取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>サービスが改善されても利用されなければ持続可能な公共交通とはならないことから、地域公共交通を取り巻く現状や利用方法・改善内容について、地域住民とコミュニケーションを図る機会を現状よりも増やして公共交通を利用して頂く機会を増やしていきたいと考えております。</p>
11	<p>検討協議会は回数も少なく(期間も短い)不安である。そこで、協議会にはぜひ、浜益・厚田・生振・花川など各地区からの多くの住民を入れての積極的な協議会になることを強く望んでいます。</p> <p>協議会参加の折には現在の公共交通手段をご利用して頂き、これも参考にして欲しい。又、浜益・厚田などで協議会を開催する事により、現在の状況を知る事に繋がると感じるので実施をお願いしたい。</p>	そ の 他	<p>本計画は、公共交通事業者、町内会自治会役員、NPO法人代表、市民公募3人(地域公共交通の利用者)及び学識経験者等からなる24人で構成する、「地域公共交通活性化協議会」を今年度は6回開催して議論を行い、検討を進めてきました。</p> <p>さらに、開催時間は路線バスの時間を考慮して設定しております。</p> <p>また、場所については、各委員の集合のしやすさから、市役所本庁舎にて開催しております。</p>